

重点となる具体の学校経営目標（１） 【学力向上】								
「知識・技能」のみならず「思考力・判断力・表現力等」及び「学びに向かう力、人間性等」をはぐくむために「主体的で対話的で深い学び」に繋がる授業に進化させる。								
課・室 学 科	重点目標	具体的計画	達成基準	中間	評価	最終	評価	外部 評価
教務課	・コミュニケーション能力の育成を軸として、より質の高い授業が行えるよう支援する。	・ＩＣＴやコミュニケーション能力の育成につながるような研修会をおこなう。 ・公開授業週間を企画し、教科を横断して授業の改善が図れるようにする。 ・授業評価アンケートを見直し、指導方法の改善の一助とする。	・本校教員の研修会への参加率が 70%(R03 未実施) 以上となる。 ・アンケートで「コミュニケーション能力の育成を意識した授業が行えたか」が、 70%以上(R03 未実施) となる。 ・学校評価調査の「南高では、教え方が工夫され、わかりやすい授業がおこなわれているか」が、 75%以上(R03 86%) となる。	・12月にＩＣＴに関する研修の企画段階である。教員アンケートを基に 1人1台端末 に必要な研修を行いたい。 ・6月6日～6月17日に授業公開週間を設定し、1学期末には授業評価アンケートを実施し、指導技術の向上を目指した。授業評価アンケートの提出率が 58% という状況を改善するための方策を模索する必要がある。	B	・本校教員の研修会への参加率が 84% となった。 ・アンケートで「コミュニケーション能力の育成を意識した授業が行えたか」が、 95% となった。 ・学校評価調査の「南高では、教え方が工夫され、わかりやすい授業がおこなわれているか」が、 75% 以上となった。	B	A
進路指導課	・基礎学力の定着と「学びに向かう力、人間性等」を育む。	・進路実力考査の事前・事後指導、小論文指導を行い、生徒の学習意欲を高める。 ・就職、進学に関する補習と模試を実施し、基礎学力の定着と応用力を高める。	・1、2年の進路実力考査（2回目）で、国数英のGTZを各学年でBゾーン以上が 30%以上(R03 35.15%) 、Dゾーンが 15%未満(R03 14.95%) にする。	・1、2年の進路実力考査1回目（4月）の結果は、Bゾーン以上が1年生で 71.1% 、2年生で 52.2% 。Dゾーンが1年生 5.4% 、2年生で 9.0% であった。2回目に下降しないよう各教科や学年団と連携し、適切な時期に事前学習教材を渡し、学力向上に取り組みたい。	B	・進路実力考査（2回目）の結果、 Bゾーン以上 1年： 49.7% 、2年： 28.2% Dゾーン以下 1年： 8.0% 、2年： 11.1% であった。特に、2年生の基礎学力の定着を図りたい。	B	
図書 視聴覚課	・「知識・技能」のみならず、「思考力・判断力・表現力等」及び「学びに向かう力、人間性」を育むために、生徒に読書と図書館利用を勧めるとともに、に、芸術に触れる機会を設ける。	・委員会活動を活性化し、校内での企画、展示などの充実を図る。 ・広報誌の充実とともに、生徒・保護者へのアピールを活発に行い、広報活動を充実させる。	・図書室の年間末利用者数が全体の 5%(R03 10.6%) を下回っている。 ・広報誌や掲示板などを用いた生徒・教職員への広報、通知票送付便を利用した保護者への広報が課全体で 7回(R03 13回) を上回っている。	・図書室の年間貸出 0冊 の生徒が全体の 5% を下回っている。 ・広報誌や掲示板などを用いた生徒・教職員への広報、通知票送付便を利用した保護者への広報が課全体で 7回 を上回っている。	B	・図書室の年間貸出 0冊 の生徒が全体の 18.8%(R03 10.6%) であり、全教職員でこれまで以上に教科、特別活動等様々な場面での図書館利用を呼びかけていきたい。 ・読書推進に関わる保護者の肯定的評価が 56%(R03 39%) に上がった。保護者向け・生徒向けの広報誌、図書委員会発行図書館だよりなどの 14回(R03 13回) の発行、PTA図書視聴覚委員会の協力による保護者対象のアンケートの実施などの取り組みが功を奏した。	B	
情報デジ タル室	・校内におけるICT環境整備の推進において、GIGAスクール構想の下で整備された生徒1人1台端末の積極的な利活用等を推進する。	・Google WorkspaceのClassroomの登録作業を行う。 ・Google Workspaceのフォームを使い健康観察、及び、カレンダーの活用を図る。 ・Google Workspaceの利活用を各教科と連携を図り、運用面の推進を行う。	・日常の業務、教科指導等において、Google Workspaceを活用している教員の割合が 80%(R03 調査未実施) になる。	・1年生の端末を配布。全員に対して利用法、利用マナー等のオリエンテーション資料をもとに行った。 必要に応じてリモート授業での活用を行った。	B	・日常の校務では、Classroomを活用して、クラスへの連絡事項の伝達、欠席連絡フォームを活用して出欠、遅刻の確認を行った。 ・教科指導においては、教材提示、講演会のリモート配信を行い、すべての教員がGoogle Workspaceの活用を行った。	B	
商業科	・学科の特色ある学びを主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決できるよう、積極的に行動できる人材を育成する。	・同じ科目担当者間の教材・情報の共有をし、チームで指導にあたる。 ・積極的に資格取得に挑戦できるよう日々の授業を充実させていく。 ・どの科目でも、一人一台端末の活用を行う。	・学校自己評価アンケートの「高度な資格取得や全国レベルの競技大会に挑戦」の項目の回答が「よく当てはまる」「やや当てはまる」が 80%以上(R03 96%) になる。 ・全商1級3種目以上合格者が 100名50%以上(R03 125名 54.6%) になる。	・令和4年度岡山県高等学校職業教育技術顕彰（前期）の被顕彰者は 105名 。（昨年度末 127名 ） ・全商1級3種目以上合格者が増えるよう、教科指導を工夫する。（昨年度末 125名 ）	B	・学校評価調査の「高度な資格取得や検定受験、全国レベルの競技大会に挑戦」の項目の回答が「よく当てはまる」「やや当てはまる」が 97% であった。（ R03 96% ） ・全商1級3種目以上合格 125名(R03 125名) 、岡山県高等学校職業教育技術顕彰対象者 117名(R03 127名) 。	A	

令和4年度 学校経営に係る重点目標・具体的計画・達成基準・評価（中間・最終・外部）				岡山県立岡山南高等学校		NO2		
重点となる具体の学校経営目標（2） 【徳育推進】								
礼儀・マナーに関する指導を充実させる。また、人間関係構築力、規範意識及び人権意識を育み、いじめや暴力は絶対に許さない生徒を育てる。								
課・室 学 科	重点目標	具体的計画	達成基準	中間	評価	最終	評価	外部 評価
総務課	・社会貢献活動を通して、視野を広げるとともに社会性を養う。	・社会貢献活動の意義を理解させるために、生徒対象のガイダンスや研修会を企画し、開催する。 ・学年、学科、部活動（同好会）・委員会などの単位で、社会貢献活動の機会を多く設け、生徒が積極的に取り組めるようにする。	・年度末に社会貢献活動の参加者が 2,000名(R03 1,455名) を超える。 ・学校自己評価調査で、生徒の社会貢献活動の肯定的評価が 80%(R03 98%) を超える。	・9月7日現在（報告済分）の社会貢献活動参加延数は 821名 （1年 124名 、2年 25名 、3年 438名 ）である。ここまでは順調にきている。今年は3年ぶりに岡山マラソンのボランティアもあり、その他の校外での活動も増えてきている。今後もしっかり呼びかけていく。	B	・2月6日現在の社会貢献活動延べ参加者数は 1,893名 （1年生 308名 、2年生 540名 、3年生 1,050名 ）である。未記入のものもあり、年度末には当初目標を達成する見込みである。また学校評価調査での肯定的評価は生徒 98% 、保護者 84% 、教職員 98% で、目標を達成した。	B	A
生徒課	・礼儀・マナーに関する指導を充実させる。また、人間関係構築力、規範意識及び人権意識を育み、いじめや暴力は絶対許さない生徒を育てる。	・クラス、委員会、部活動の中から本校を担うリーダーを育成し、リーダーとして課題解決に向けて、全校に働きかける。 ・指導に関しては教職員の意思統一を図る。	・自転車の安全利用、交通安全意識の向上が 80%以上(R03 78%) になる。 ・生活アンケートを実施し、人間関係構築力や人権意識の向上が 80%(R03 未実施) 以上になる。	・生活アンケートについては年度末に実施予定。 ・礼儀やルール・マナーの向上については、教員から集会などで全校生徒に向けて注意喚起をしたり、交通自治委員が月1度、交通だより「アゴラ」を発行したりして、マナー向上に努めている。	B	・生活アンケートを学期ごとに 3回 実施。いじめなどのトラブルはないが、人間関係の構築が難しく、心が安定せず、日常的に不安を抱えている生徒が全学年とも増加している。 ・交通自治委員が 月1度 、交通だより「アゴラ」を発行し、交通マナー向上に努めてはいるが、苦情は減らない。しかし、1月実施のアンケート結果では、交通ルール・マナー遵守の生徒意識について日頃の遵守意識は 90% を超えている。また、交通自治委員等による交通安全啓発活動を通じて以前より交通安全への意識について 約80% が高まったと回答している。	B	
人権・教育相談室	・LHR・総合学習において、より効果的な人権教育の推進に努めるとともに、教職員研修の充実を図る。	・人権・教育相談講演会（1年）（5月） ・人権・性教育講演会(2年）（1月） ・主権者教育LHR（3年）（10月） ・主権者教育LHR（2年）（7月） ・人権・教育相談教員研修（5月）	・講演会の感想、アンケートによる生徒の人権意識の向上が 80%以上(R03 1年生 93%) になる。 ・教職員のアンケートによる研修の充実度が 70%以上(R03 90%) になる。	・人権・教育相談講演会（1年）及び2年生LHRで実施した主権者教育の生徒アンケートで、ほとんどの生徒の人権意識が向上したと答えた。	B	・学校評価調査のいじめ根絶に向けた取り組みについて、肯定的評価が、生徒 84%(R03 82%) ・保護者 57%(R03 55%) ・教員 90% (R03 86%) と、ともに数値が上がり、取り組みの成果が見られた。 ・充実度が 90% を超えたユニバーサルデザイン教員研修だったが、その追跡アンケートの結果から、困っているのは生徒であるという教員の意識が高まり、適切に個別の対応を行えるようになってきたと考える。	A	

令和4年度 学校経営に係る重点目標・具体的計画・達成基準・評価（中間・最終・外部）				岡山県立岡山南高等学校		NO3		
重点となる具体の学校経営目標（3） 【グローバル人材育成】								
グローバル人材の育成に向け、積極的に国際交流行事に参加させたり、日本文化に触れさせるとともに、文化的行事や文化部の活動を通じて豊かな感性を養う。								
課・室 学 科	重点目標	具体的計画	達成基準	中間	評価	最終	評価	外部 評価
総務課	・種々の活動を通して、コミュニケーション能力を高めるとともに、広い視野を持ち異文化を理解する態度を養う。	・国際経済科においては、イングリッシュチャレンジ、異文化理解講演会を中心としつつ、他の取り組みにも積極的に参加させる。 ・その他の学科においては、陸行中学校との交流、岡大留学生との交流等、積極的に国際交流行事の参加を呼び掛ける。	・学校自己評価アンケート「様々な場面でグローバル教育が行われている」で生徒の肯定的な割合が 60%以上(R03 69%) になる。 ・国際経済科においてはアンケートによって満足度が高い生徒が 80%以上(R03 80%) になる。	・国際経済科においては7月に外部講師による講演会を予定通り開催できた。9月にはベルギーからの長期留学生を迎え、生徒たちは刺激を受けている。	B	・国際経済科においては7月に外部講師による講演会を予定通り開催できた。12月にはイングリッシュチャレンジを実施。また9月にはベルギーからの長期留学生を迎え、生徒たちは刺激を受けた。 ・学校評価調査の肯定的評価は、生徒 77% 、保護者 58% 、教職員 75% で、ほぼ目標を達成できた。	B	B

重点となる具体の学校経営目標（4） 【心身の健康】								
授業や学校行事、部活動を通じて自己肯定感を養い、健康教育・保健指導・教育相談機能を充実させて心身ともに健全な生徒を育成する。								
課・室 学 科	重点目標	具体的計画	達成基準	中間	評価	最終	評価	外部 評価
生徒課	・授業や学校行事、部活動を通じて自己肯定感を養い、心身ともに健全な生徒を育成する。	・部活動を活性化させるために教員組織と生徒組織が一丸となって、強化を図る。 ・魅力ある授業や輝かしい学校行事について、教職員の同僚性の向上を図る。	・部活動加入率 90%以上（R03 85.5%）になる。 ・誠友会行事、クラス活動、部活動等、授業や学校行事に対する満足度・達成度が 80%以上（R03 未実施）になる。	・部活動加入率は82.1%で年々、減少している。男女とも運動部への加入率が減少しており、特に、女子にその傾向が顕著である。 ・コロナ禍ではあるが、行事を中止せず、実施できているが、今までの行動制限の影響なのか、無力感が表情に表れている。生徒の表情に生気がよみがえり、主体的に活動できることを期待する。 ・部活動の面では 総文祭に箏曲部が参加、吹奏楽部が実行委員会特別賞を受賞した。また、全国総体に女子ソフトテニス部、新体操部が出場するなど活躍をした。	B	・部活動加入率は 82.1%と昨年度より減少はしているが、活動実績は運動部、文化部ともに全国大会に出場するなど、輝かしいものである。また、部活動以外でも、商業学科、家庭学科いずれの学科においても、華々しい活躍がみられた。中でも、トップマネジメントは「全国高等学校生徒商業研究発表大会」で本校初の全国優勝を果たし、快挙を成し遂げた。 ・アンケート結果で、南高の学校生活に満足している生徒は約 90%であった。さらに、勢いのある学校づくりをするためにも、教員組織と生徒組織が一丸となって、活性化に努めたい。	A	A
保健 厚生課	・心身ともに健康で、主体的に健康管理ができる生徒の育成を行う。 ・新型コロナウイルス対策に積極的に取り組み、日常の衛生管理を充実させる。	・年間の活動テーマを決めて、保健委員会と協力し、保健活動を推進していく。 ・保健だより作成の際に年間テーマに沿った内容を取り上げる。→保健委員による各クラスでの保健指導の充実を図る。 ・受診した生徒の受診報告書を提出させ、受診率を可能な範囲で高める。	・保健委員の保健委員会活動への満足度が90%(R03 90%)を超えている。 ・各種受診率が受診可能生徒の中で95%(R03 52.8%)を超えている。(受診見合わせ届けの提出を含む) (昨年度未受診延べ人数 301 名)	・保健委員会活動については、コロナ対策の一環でお昼休みの放送により手指消毒やマスク着用・黙食を促す放送を継続的に実施中。現在、飛翔祭に向けての発表・取り組みを準備中。 ・各種受診率の向上を図るため、クラス担任だけでなく部顧問からの指導も依頼して全校の受診率を上げる対策に取り組んでいる。 ・夏より、サーキュレーターを各クラスへ設置。エアコンの有効利用を図った。 ・継続的に保健便りを発行し、健康管理を推進している。	A	・コロナ禍の中、昼休みの放送や、始業式・終業式での動画配信など、積極的な委員会活動を展開できた。 ・各種受診指示票を手渡し、学級担任・部活動顧問の協力を得て受診の推進を図ったが、コロナ禍の中での取組は十分な成果を出すに至らなかった。 ・学校保健委員会が書面での報告となったが、集約された結果を基にしっかりと振り返りと次年度への取組課題を検討することができた。	A	
人権・教育 相談室	・問題を抱えた生徒の早期発見、対応に努める。	・相談室・学年団会議、心の健康相談後の連絡会等を活用し、生徒情報の収集、交換に努める。 ・「ストレスチェック(悩みに関するアンケート)」等を有効活用し、生徒へのきめ細かい声かけを行う。 ・SC、SSW、校医等の専門家や関係機関と連携し、支援・対応にあたる。	・学校自己評価調査の「心のケア」に関する項目において、「よく当てはまる」「やや当てはまる」の生徒の回答が 80%(R03 89%)、教員の回答が 90%(R03 91%)を超えている。	・会議での情報交換、担任や保健室との連携等を通じて、問題を抱えた生徒の把握に努め、必要に応じて適切にSC、SSW、学校医に繋いでいる。 ・初めて生徒情報一覧を作成し、4月と8月に更新し、授業担当の教員に確認してもらうことで、生徒の支援に生かしている。	A	・学校評価調査の結果は生徒・保護者・教員とも向上しており、達成基準を十分満たしている。特に保護者については、肯定的評価が 72%(R03 56%) と、16%という大幅な向上が見られた。 ・SC、SSW、学校医への相談件数はかなり増加しており、年間延べ120人を超える生徒の心のケアを行うことができた。また、関係機関と連携したきめ細かな対応ができた。	A	
1年団	・生活習慣の確立を目指す。	・進路実力考查、面接指導や遅刻指導などの声かけを通して、生徒の自己肯定感を養う。	・学習実態調査で、平均学習時間が、100分以上になる。	・面接指導や遅刻指導等を通して、生徒の自己肯定感を養う声かけを行っている。4月の学習実態調査で、平均学習時間が99分であった。	B	・面接指導や遅刻指導等を通して、生徒の自己肯定感を養う声かけを1年間行ってきた。10月の学習実態調査で、平均学習時間が103分であった。	B	
2年団	・授業や学校行事、部活動を通じて自己肯定感を養い、心身ともに健全な生徒を育成する。	・「総合的な探究の時間」で自己の興味関心について深く考え、それをアウトプットすることで理解してもらう機会を重ねる	・授業で行う自己評価について、80%以上(R03 未実施)の生徒が、自己肯定傾向になる。	・前期中に実施している内容をアウトプットする機会を年末に予定している。その準備段階での取り組みは熱心であり、肯定的な自己評価につなげていきたい。	B	・1年間学習してきたSDGsについてポスターセッションを行った。アピールが苦手な生徒も精一杯学んだことをスピーチできていた。 ・ポスターセッションの相互評価では、概ね高評価を受けて完了できた。	A	

重点となる具体の学校経営目標（5） 【進路指導】								
LHR・インターンシップ・企業訪問・校外実習等のキャリア教育全般を通して、望ましい勤労観、職業観を育んだ上で、生徒一人一人の個性や希望に沿った進路を実現する。								
課・室 学 科	重点目標	具体的計画	達成基準	中間	評価	最終	評価	外部 評価
進路指導課	・生徒一人一人の個性や希望に沿った進路を実現する。	・進路LHR、総合的な探究の時間を通じて、生徒の進路意識を向上させる。 ・質の高い集会と講話で、専門性を活かした望ましい勤労観、職業観を育む。	・就職希望者の1次内定率 90%以上 (R03 81%) 、最終内定率が 100% (R03 100%) になる。 ・公務員希望者のうち最終合格者が、 3名以上 (R03 3名) になる。 ・進学希望者のうち国公立大学の合格者数が商業学科 25名 (R03 22名) 、家庭学科 2名 (R03 0名) 以上になる。また、ノートルダム清心女子大学の合格者数が 15名以上 (R03 6名) になる。	・3年ぶりに、2年生就職希望者のインターンシップが実施できた。進路意識向上のため2学期には、2年生は学校別進路説明会と講演会、1年生は企業ガイダンスと講演会を実施する。 ・3年就職希望者 38名 は、SPIと一般常識の朝学習、面接指導などに取り組んでいる。進学希望者は、小論文個別指導、進学補習など個々の受験に向け準備している。	B	・企業就職希望者 31名 全員が内定をいただき、内定率 100% を達成した。1次内定率は 89% であった。公務員は 3名 合格した。 ・国公立大学商業学科 27名 、家庭学科 2名 、ノートルダム清心女子大学 11名 が合格した。 ・2年生学校別進路説明会と1年生企業ガイダンス、事前指導の講演会を実施した。12月以降、進学資料室を利用する2年生が増え、進路意識を向上させることができた。	B	B
家庭科	・学科の特性を活かし、生徒の個性や希望に沿った進路決定ができるよう支援する。	・1年次から生徒の進路希望状況を共有し、早期から教員間の共通理解・連携を図る。 ・大学との連携、社会人講師の活用を積極的に行う。	・年度末3年生の学科アンケートにおいて、「納得する進路決定ができた」とする回答が 90%以上 (R3 できた87%、概ねできた11%) となる。 ・大学などから外部講師を招いた新規の授業を 2回以上 行うことができています。	・1学期の家庭科会議で、1～3年の家庭学科生徒全員の進路希望について、確認することができた。3年生の進路希望については、特に綿密に共通理解を図ることができた。 ・1学期、保育の分野で大学から外部講師を招いた新規授業を 3回 、専門学校によるCADの新規授業を 1回 実施することができた。	B	・3年生の学科アンケートにおいて「納得する進路決定ができたか」という問いに対し、「できた」 89.4% 、「概ねできた」 9.6% となった。 ・中国短期大学講師による保育の授業を年間 9回 、中国デザイン専門学校講師によるCAD授業を年間 2回 実施できた。そのほかにも新規に外部講師による授業を複数行うことができ、専門的な学びや進路に対する意識を深めることができた。 ・今後も生徒の希望状況を早期から教員間で共有し、より高い進路目標の実現に向けて指導してきたい。	B	
3年団	・時期に応じたタイムリーな進路指導をおこない、生徒の進路目標実現に向けて適切な援助を行う。	・計画的に進路LHRをおこない、生徒の進路実現に向けて指導や情報提供をおこなう。	・学校自己評価調査の進路指導に関する項目で、生徒の肯定的な回答の割合が 80% (R03 88%) を超えている。 ・学校自己評価調査の進路指導に関する項目で、保護者の肯定的な回答の割合が 80% (R03 78.7%) を超えている。 ・学校自己評価調査の進路指導に関する項目で、教員の肯定的な回答の割合が 80% (R03 94.7%) を超えている。	・3年生の進路指導LHRは、計画どおり実施できている。就職者・進学者に対して、時期に応じてタイムリーな情報提供をしており、生徒たちも自分の進路目標に向けて努力をしている。	B	・学校評価調査の生徒の進路指導に関する肯定的な回答の割合が、 90% と昨年度の肯定的な回答を超えている。これは、自分の目標とする進路実現ができた生徒が多かったことだと思われる。 ・学校評価調査の保護者の進路指導に関する肯定的な回答の割合が、 72% と昨年度の肯定的な回答を超えている。しかし、目標とする 80% には届いていない。ただし、分からないという回答が 16% と多くみられ、今後、保護者に対する情報提供に取り組む。 ・学校評価調査の教員の進路指導に関する肯定的な回答の割合が、 90% と高い数値を示している。しかし、昨年度の肯定的な回答を下回っており、教員に対しても情報提供を充実させる必要がある。	B	

重点となる具体の学校経営目標（6）【カリキュラム・マネジメント】

令和4年度の新学習指導要領実施を受け、地域や企業、大学等との連携・協働を進めるとともに、教科横断的な視点に立ち、「コミュニケーション能力の育成」を教職員の共通目標として定め、教科指導、特別活動、学校行事、部活動など本校のすべての教育活動を通して、その育成を目指す。

課・室 学 科	重点目標	具体的計画	達成基準	中間	評価	最終	評価	外部 評価
教務課	・評価方法を見直し、観点別に基づいた評価を実践できる体制を整える。	・年度の早い段階で観点別評価を提案し、年内実施を目指す。 ・新学習指導要領が実施される1年生から順次実施する。	・観点別に基づいた評価を実施できている。	・評価に関する校内研修を行い、改めて観点別評価について学ぶことができた。 ・観点に基づく 5段階評価 を導入する予定であったができなかった。今後、評価できる体制を整えたいうえで、改めて提案する必要がある。	C	・従来通りの100点法に基づく評価を継続することとなった。観点別を中心とした評価の導入には至らず、導入に向けて準備されていた教科の先生方には大変なご迷惑をおかけし、申し訳なかった。	C	B
図書 視聴覚課	・生徒の探究的な活動の支援を行い、コミュニケーション能力の基盤となる自学能力や情報活用スキルの育成を図る。	・図書資料、視聴覚資料、インターネットなど多様なメディアの資料の収集・整理・保存・提供を行うとともに、情報活用スキルの習得の支援を行う。	・生徒1人あたりの図書貸出冊数平均 8冊以上 を達成したクラス数が全体の 65%(R03 54%) を超え、全体の年間総貸出冊数が 10,000冊(R03 9,800冊) を超えている。 ・情報活用に関する展示を生徒向けに 年2回 実施している。	・生徒1人あたりの図書貸出冊数 平均8冊以上 を達成したクラス数が全体の 65% を超え、全体の年間総貸出冊数が 10,000冊 を超えている。 ・情報活用に関して、「総合的な探究の時間」にレクチャーを 2週 にわたって行った。	B	・生徒1人あたりの図書貸出冊数平均 8冊 以上を達成したクラス数は全体の 44%(R03 54%) 総貸出冊数は 7,089冊(R03 9,800冊) であり、低調であった。「端末一人一台」の影響が予想され、他校でも同様の傾向が見られる。課や図書委員会で打開策を検討している。 ・図書館活用教育の一環として、「総合的な探究の時間」に年間指導計画に沿った情報活用の方法等に関するレクチャーを 4回 に亘って行った。	B	
商業科	・新学習指導要領の実施を受け、教科横断的な視点に立ち、コミュニケーション能力の育成ができるよう社会に開かれた教育課程を編成する。	・小学科の特性が発揮できるような教育課程編成の研究をさらに進めていく。 ・コミュニケーション能力の育成に繋がる授業の在り方を考える。	・専門科目の学習内容を、カリキュラム・マネジメントの視点で検討し、小学科の方向性の意識づけを確立できている。 ・学科アンケートでコミュニケーション能力が身についた・やや身についたと答えた生徒が 90%以上(R03 未実施) になる。	・各小学科の学びの目標を見据えた指導法を教科内で連携しながら進めていく。 ・各科目で、生徒のコミュニケーション能力が身についたと、実感できるような場面を授業内で工夫するよう心がけていく。	B	・小学科の方向性の位置づけ、達成できる教育活動を明確化し、一人一台端末の活用についても情報を共有し今後も継続して検討していく。 ・学科アンケートでコミュニケーション能力が身についた・やや身についたと答えた生徒が、 84.2% であった。	B	
家庭科	・新学習指導要領に基づいた、新しい学科の学びを確立させる。	・コミュニケーション能力育成のため、対話的な授業を積極的に行う。 ・生活創造科、服飾デザイン科それぞれの新教育課程の科目について、大学等と連携し、指導内容の検討を行う。 ・アパレルCADや天井カメラシステムを授業で活用し、効果的な指導方法を探る。	・年度末1～3年生の学科アンケートにおいて、「コミュニケーション能力が身についた」とする割合が 90%以上(R03 未実施) になる。 ・新教育課程の科目について、その具体的指導計画を立案することができている。	・ペアワークやグループでの話し合いなどを授業に積極的に取り入れることができている。 ・中国学園大学・短大との高大連携により、生活創造科の保育分野の授業内容について、専門的な立場からのアドバイスを頂くことができ、深い学びにつなげることができている。 ・アパレルCADについて、中国デザイン専門学校の協力を頂きながら、授業への導入が積極的になされている。	B	・学科アンケートにおいて「コミュニケーション能力が身についた」とする割合が、1年生 95% 、2年生 93.4% 、3年生 96.8% となった。 ・アパレルCADや天井カメラシステムを授業の中で活用し、効果的な活用方法を積極的に模索することができた。 ・令和5年度・6年度の新科目について、年間指導計画の立案が十分にはできておらず、早急に進めていきたい。	B	
1年団	・コミュニケーション能力の育成を目指す。	・授業や学校行事を通じて、集団で活動する機会を多く作る。	・学校自己評価調査の「生徒の良好な人間関係づくりの支援や、いじめ根絶に向けた取組が行われている」の項目が、 80%以上(R03 83.7%) になる。	・学年集会をもつなど、集団で活動する機会を多く作るよう心がけている。学年集会や学年通信を通じてよりよい人間関係づくりについて考えさせるようにしている。	B	・学年集会や学年通信を通じてよりよい人間関係づくりについて考えさせる働きかけを行ってきた。学校評価調査の「生徒の良好な人間関係づくりの支援や、いじめ根絶に向けた取組が行われている」の項目が、 84% であった。	B	
2年団	・地域・企業・大学等との連携を進めコミュニケーション能力の育成を図る。	・「総合的な探究の時間」と「修学旅行」をSDGsについて深く学ぶ機会と捉え、企業や大学生との交流で質問力・発信力・聞く力を養う。	・「修学旅行」を終えた「総合的な探究の時間」まとめて行う自己評価において、 80%以上(R03 未実施) の生徒が自己肯定傾向になる。	・修学旅行実施前で有り、現段階で評価できるものがない。 ・前期中に実施した授業では、概ね前向きな取り組みが見え、成長を感じる。	B	・修学旅行の事後アンケートに於いて、SDGsについての学習内容充実に関して 82.4% の生徒が普通以上の評価をしている。 ・交流した地域の方々からも質問力の高さを評価され、主体的に交流できたと考えている。	A	

重点となる具体の学校経営目標（7） 【安心・安全】								
交通安全及び防災に関する啓発を行うとともに、万が一の災害発生時に迅速で適切な対応がとれるよう交通機関との連携を深める。また、安全で安心な学校であるよう施設、設備の美化、点検補修及び更新を進める。								
課・室 学 科	重点目標	具体的計画	達成基準	中間	評価	最終	評価	外部 評価
保健 厚生課	・校内美化の徹底 ・防災意識の高揚と危機管理の徹底	・美化委員会の活動として、クラスチェックを月1回実施し、集約したものを報告し美化意識向上に努める。 ・校内全体の整備を図り、清掃用具汚破損の更新を行う。 ・抜き打ちの防災訓練の実施をおこなう。 ・AED シミュレーション研修を開催する。	・美化委員会チェックで、全クラス中清掃不備クラスが 毎回5クラス以内 。 ・教員による清掃場所の点検報告を 毎月 行い、報告結果をまとめている。 ・全生徒、教職員の防災訓練避難完了 8分以内(R03 7分58秒) が達成できている（体育館・運動場）。 ・教職員のAED研修者が 100%(R03 98.6%) になる。	・校内美化チェックが定着し、クラス美化委員が活発にチェックを行うようになった。教員による危険箇所のチェックを臨時に実施し、様々な立場からの指摘を得て現在対策を進行中である。 ・美化必要消耗品棚を新設、利便性を図った。 ・9月に防災避難訓練を実施、 5分後半 で体育館避難を完了した。生徒に対して、冷静な行動と状況判断ができるよう指導を継続する。 ・AED研修を実施し、全教職員の参加までには至らなかったが、エビペン研修が開催できた。	B	・美化委員による清掃チェックが定着化し、生徒の美化意識が育成されてきた。清掃監督の教員にも協力を仰ぎ、学習環境の整備を推進していく。 ・全面改修されたトイレを引き続き清潔に利用できる環境づくりを、次年度取り組む。 ・必ず来るであろうといわれている「南海トラフ地震」に対して、日頃からしっかり防災意識を持たせる指導を推進していきたい。 ・校内緊急連絡フォンを活用した緊急対応が数件あったが、手際よく対応することができた。	A	A

重点となる具体の学校経営目標（8） 【今後の方向】								
志願者を増やすために適切な方策を講じるとともに、学科の在り方や商業・家庭両学科の有機的な結びつきに関する研究をより進める。また、創立120周年記念事業の準備、実施に取り組む。								
課・室 学 科	重点目標	具体的計画	達成基準	中間	評価	最終	評価	外部 評価
総務課	・中学校や地域との連携を強化する。	・オープンスクールや卒業制作展、学校説明会などで、学校の様子や学科の特色、卒業後の進路が中学生や地域の方にわかりやすく伝わるように工夫する。 ・担当教員に加え、生徒の広報組織を通して、中学校や地域に積極的に情報公開をするとともに、連携を密にする。	・オープンスクールの参加人数が7月と9月、10月を合わせて 2,000名(R03 1,409名) を超える。 ・卒業制作展の来校者が 1,000名(R03 290名) を超える。 ・担当教員の中学校訪問を 年間2回以上 行う。	・7月のオープンスクール参加者 生徒・保護者計 868名 ・9月の部活動体験オープンスクール 生徒・保護者計 214名 ・担当者による中学校訪問を6月に実施した。	B	・11月のオープンスクール参加者 生徒・保護者計 365名 年間計 生徒・保護者 1,447名 担当者による中学校訪問 6月に実施	C	B
図書 視聴覚課	・創立120周年記念事業の準備、実施に取り組む。	・創立120周年記念事業として、芸術鑑賞会の実施、記念誌や校誌の編集を行う。	・芸術鑑賞会、記念誌、校誌がこれまでの学校の歩みを振り返り、これからのあり方を考えるものになっている。	・ワークショップを取り入れた狂言の鑑賞会を実施し、全校生徒が日本文化に触れる機会を設けた。 ・記念誌は校正、校誌は目次等の決定を行っている最中である。	B	・ワークショップを取り入れた狂言の鑑賞会を実施し、生徒が日本文化に触れる機会を設けた。 ・創立120周年記念の記念誌や校誌を3月1日に発行する。 ・創立120周年を記念し、文化講演会を実施した。	B	
商業科	・学科の在り方や商業・家庭両学科の有機的な結びつきに関する研究を進める。	・共通教科や家庭学科との連携により、教科横断的な視点で、魅力ある教育課程の編成を考えていく。 ・専門科の教員で中学校訪問や地区別説明会を積極的に行う。	・昨年より実施している、課題研究や卒業制作展など家庭学科と連携した取り組みをより良いものにする。 ・商業科教員全員で、学校訪問を行い、ブログやYouTubeなどを活用し、積極的な情報発信を行うことができる。	・今年度も両学科の課題研究や卒業制作展で連携できるところがあれば、積極的に連携していく。 ・商業学科での学びが、進路先でどう活かされているのか。また高校生活で大切にしたいことを卒業生にインタビューし、その動画をHPで配信することで学科の魅力を発信している。	B	・ブログやYouTubeなどを活用して、生徒の生き生きとした姿を積極的にPRしていく。今年度は卒業生のインタビューも配信することができた。 ・今年度も継続して課題研究や卒業制作展など、家庭学科との連携した取り組みを実践できた。	B	
家庭科	・魅力ある学科づくりに向けての取り組みを行う。	・ブログ、動画配信等を通じ、情報発信に努める。 ・商業学科との連携をより一層図り、授業や学校行事を魅力的なものにする。	・ブログの発信を 年間70件以上(R3 79件) することができる。 ・卒業制作展の動画を配信することができる。 ・商業学科と連携した120周年に相応しい、内容の充実した卒業制作展となる。	・ブログの家庭科からの発信は9月時点で 33件 となっている。卒業生のメッセージ動画も配信することができた。 ・卒業制作展に向けて、商業と連携して早めの計画・準備が必要である。	B	・ブログの家庭科からの発信は1月27日時点で 66件 。Chromebookの活用など、より手軽に写真などを提供できるようなシステムを検討していく。 ・課題研究での商業・家庭学科の連携、商業Webデザイン講座による家庭学科の行事の動画配信などが行われ、学科の魅力を多くの方に伝えることができた。今後もより生徒の学びが深まり、魅力が発信できるよう新しい取り組みを考えていきたい。	B	

重点となる具体の学校経営目標（9） 【PDCA】								
生徒ファーストの学校であることを大前提に、学校組織の活性化と業務の効率化に向け、目標設定から評価に至る営みの中でPDCA サイクルを機能させるとともに、勤務負担の軽減にも取り組みながら、教職員の同僚性の向上を図って健全な職場環境を構築する。								
課・室 学 科	重点目標	具体的計画	達成基準	中間	評価	最終	評価	外部 評価
総務課	・業務を整理し、仕事の分散化をはかる。	・情報デジタル室との連携をはかる。 ・広報活動は専門科と協力して進める。	・担当者が変わった場合もスムーズに仕事が引き継げるよう、データ等を引き続き整理できている。	・総務課内の仕事の分担を図っている。	B	・総務課内の仕事の分担を図っている。	B	B
教務課	・課内外とのより良い協業体制の構築を図る。	・課内の係再編を行い、全員が互いに協力できる体制を構築する。 ・係ごとの年間スケジュールを作成・ヒアリングを行い、課全体の動きを課員全員で把握する。 ・情報デジタル室などとの連携を通して、課を超えた協業体制を構築する。	・課員を対象としたアンケートで「仕事の効率化が図れたか」などが、 70%以上(R03 未実施) となる。 ・他課との連携した企画を 3つ以上 行う。	・課会については1か月に 1回 、短時間で行うように設定し、課全体での情報共有を図っている。その際、係の仕事の進捗状況が分かりやすいように業務予定表を提示している。業務予定表については、教務課全員が随時、データの追加訂正することで今後の予定を把握しやすくする工夫を行っている。 ・情報デジタル室と連携し、教員アンケートや研修企画などを行っている。 ・総務課と連携し、留学生受け入れの準備を進めた。	B	・課会は概ね 月1回 、昼休みの時間帯を利用して行い、係の仕事の進捗状況を確認、課全体での情報共有が図れた。また、課員を対象としたアンケートで「仕事の効率化が図れたか」の肯定的評価が 60% であり、今後もより効率化の改善に向けてはたらきかけたい。 ・情報デジタル室と連携し、ICTに関する研修、出欠連絡フォームの作成を行うことができた。	B	
生徒課	・勤務負担の軽減にも取り組みながら、教職員の同僚性の向上を図って健全な職場環境を構築させる。	・課全体で情報共有を積極的に行う。 ・指導の統一を図り、健全な職場環境を構築する。 ・時代の変化に応じた機動力のある指導をする。	・ 月一度 の定例会議を開催する。 ・広く意見を集約し、共通認識を図る。 ・仕事が偏らず、課全体で協力できる。 ・教職員アンケートによる充実度が 70%以上(R03 未実施) になる。	・ 月に一度 定例会議を開催し、積極的な意見交換を行うことで、生徒課内の共通理解を図ることができた。 ・各係で仕事を分担して、仕事の偏りがないようにしている。	B	・コロナ感染症、教育相談、生徒指導等で迅速な対応を求められる場面が多かったが、適切な対応ができた。生徒課内で情報交換を行い、時間的に厳しい場合は、回覧で情報交換を行うなど、共通理解を図ることができた。 ・仕事の偏りがないよう声を掛け合い、役割分担をしっかりと行った。様々な課題や諸問題に対して機能的に対応することができた。	A	
進路指導課	・組織の活性化と業務の効率化を図る。	・進路指導に Chromebook または Classroom を活用した取り組みを入れる。 ・情報共有と情報発信の場として、教職員、生徒ともに開かれた進路指導室にする。	・進路課便り（通信）を Chromebook（Classroom）で学期に 1回 発信する。 ・学年に関係なく多くの教職員生徒が、進路指導室に出入りし、情報交換（共有）をするようになる。	・1学期に進学用と就職用の 2種類 の進路課便りを3年生対象に発行した。Chromebook とペーパーの両方で対応した。 ・進路指導課で得た企業や大学の情報と総合的な探究、進路LHR などのために作成した資料をデジタルペーパーで残し、情報共有できるようにしている。 ・進路指導室の当番制や進路会議等により、課内や3年団との情報交換はできているが、1・2年団とは不足している。課員を中心に積極的に各学年団との連携を深めていく必要がある。	B	・進路課便りを学期に 1回 発信した。 ・進路室の当番制は進路指導課員の先生方には負担であるが、情報共有の場となり、成果はあった。生徒・教員ともに、進路に関しての質問や意見を気軽に話すことのできる進路指導室でありたい。 ・来年度は求人票をデジタル化し、パソコンやスマホからでも見えるようにしたい。	B	
図書 視聴覚課	・学校組織の活性化と業務の効率化に向け、図書館活用において教科・担任との連携を図り、各教科の支援を行う。	・図書館活用教育や情報活用スキルに関する情報提供を行い、教科間の学習内容を相互に関連づけたり、精選したりできるようにする。	・校内の図書館活用教育の概要を 年1回(R03 1回) 報告し、全教職員が授業計画や授業内容の見直しに活用できるようになっている。 ・読書の意義を伝え、各教科の学習を支える図書館報を 年1回(R03 1回) 発行できている。	・南高 HP に情報活用のためのリンク集を作成し、職員会議等で広報した。 ・10月には図書館を活用した授業について前期分の情報共有を行う。 ・3月に図書館報の発行を予定している。	B	・南高 HP 内の図書館のリンク集について、職員会議等で広報し、情報活用教育活用を推進した。 ・図書館を活用した授業事例について 10 月・2 月に情報発信し、授業開発の手立てとした。 ・3 月 1 日に図書館報を発行し、教職員、生徒など様々な立場からの本の紹介を行っている。	B	
保健 厚生課	・学校組織の活性化と業務の効率化を実現する。	・PTA 各委員会のさらなる活性化を目指し、クラス役員・三役から組織される各種委員会の取り組みの充実を図る。各種委員会に教員を配置し、学校からの要望や、取り組みの舵取り役を担ってもらう。	・ 年3回 開催されるPTA 役員会において、 4委員会 も開催しそれぞれの取り組みを具体化している。（P・D） ・PTA 役員会の出席率（委任状を含む）が 90%(R03 90%) を超えている。 ・令和4年度の活動成果をまとめて次年度へ送る資料（C・A）が出来ている。	・PTA 活動については、本年度もコロナ対策により集まることが厳しい状況にあり、制約があった。 ・コロナ禍ではあったが、体育館を使用してPTA 総会が開催できた。 ・次回の役員会では、学校総合実践室（大型教室）を使用し全 PTA 役員が出席できるよう企画中である。同日に各種委員会も開催予定にしている。	B	・PTA 活動が見直されていく中、本校では引き続き各種委員会（保護者小委員会）が発展的に活動できるようサポートしていきたい。 ・コロナ禍の影響も有り PTA 役員会の出席率は 65% となった。	B	
人権・教育相談室	・適切な業務内容と業務分担を確立し、効率的に業務を行うよう努める。	・定期的に業務について情報交換を行い、業務内容と業務分担について工夫していく。	・PDCAサイクルを機能させている。	・文章やネットワーク上での業務確認や情報共有ができている。 ・教育相談室の開放日の設定については、まだスタートできていない。	C	・教育相談室の別室として、特別教室を借り、準備室の今後の活用が見込まれることとなった。 ・教育相談室のフォルダーを活用し、教育相談室に関係した生徒情報に関する情報共有が一層進み、生徒の支援をタイムリーに行い易くなった。	B	

